

生活者の一典型としての／ 学習者としての「帰国者」の特徴

- 帰国/来日の年齢≒学習開始年齢が各年齢層に渡っている
(～70・80代まで)
- 学習適性の幅・就学歴・生活歴・日本語学習歴 も様々
(非識字者～医師・大学教授)
- 学習ニーズは ライフステージの各段階で／生活の様々な領域で生じる
- 言葉も文化も、主に生活の傍ら或いは実際の生活を通して＝
非公式の学習機会を通して学んでいく人々である

帰国者センターの「評価」の枠組み

- a 「身近な生活場面の行動達成」 (日本語だけではない)
- b 「日本事情等の理解」
- c 「基礎的コミュニケーション力」 (やりとり)
- d 「聞く/話す力」 e 「読む力」 f 「書く力」

生活者の歓談場面における JSL「コミュニケーション力」水準

- 「コミュニケーション」：
NSとNNSが“協働”して談話を作り上げていく行為
- 「コミュニケーション力」：
“協働”の一方の当事者として関わっていく力
- どんなコミュニケーションを測るのか：
NS \leftrightarrow NNS間の雑談・歓談といった、コミュニケーション自体が目的となる会話場面で、双方が共に意思疎通の努力を行うもの
- 生活者の歓談「コミュニケーション力」水準設定の観点
 - A：どのような支援があれば、どのようなやりとりが成り立つか
“支援度”（⇒NS側に必要とされるコミュニケーション力）
“話題の範囲”
“やりとりのなめらかさ” ≡ 所要時間
 - B：発話のわかりやすさ
 - C：“協働”してやりとりする力

自発的な $+ \alpha$ のある応答、会話への積極性、相槌、共感の表明、意図の伝わり具合の確認、行き詰りへの対処、言葉遣いや話題への配慮、等